彩の国
埼玉県

令和４年度　総合教育センター　研究報告書【第 429 号】

最終報告【 ダイジェスト版 】

農業教育・環境教育推進担当

埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

# 特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援に関する調査研究

## 1　はじめに

●我が国では、農業就業人口の減少が進行している。本県も例外ではなく、基幹的農業従事者数は令和２年度までの 20 年間で約５割減少し、加えて従事者の 72.6%が 65 歳以上と全国(69.6%)に比しても高齢化が進展しており、農業分野での労働力確保は喫緊の課題となっている。

●国の農福連携等推進会議は、令和元年６月に「農福連携等推進ビジョン」をまとめ、農福連携の取組を官民挙げて実践することで、農業の発展や障害者等の一層の社会参画を促進し、さらには地域共生社会の実現を期待している。

●本県の特別支援学校では作業学習に「農耕班」や「農園芸班」「園芸班」を設置しており、多くの生徒が農業に関する学習に通年で取り組んでいる。しかし、学習で得た知識や技術を直接生かした就労は限られているとされており、その実態を明らかにして、総合教育センターとしても就労を支援する必要がある。

**農福連携**

**障害者等の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の生きがいを創出し、社会参画を実現する取組**のこと。農業経営体による障害者雇用、障害者就労施設等による農業参入や作業委託等、様々な形で動きが見られる。

ノウフク

（農福連携等推進ビジョンより）

**ＳＤＧｓ**

国連が定めた SDGs（持続可能な開発目標）の「８働きがいも経済成長も」個別ターゲットに「**障害者を含むすべての男女の完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一賃金同一労働を達成する**」とあり、実現が望まれる。

## 2　研究の目的

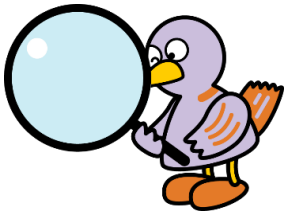
**●埼玉県の「農福連携」推進に貢献する**

特別支援学校での農業に関する「作業学習」の充実に資するプログラムを作成し、あわせて農業分野の企業・法人と特別支援学校の連携を促すことで、生徒の就労機会を増やす。埼玉教育に携わる教職員や農業分野で働く方をはじめとした県民に向けて研究成果を広く発信し、埼玉県における農福連携に貢献する。

## 3　研究の内容

### (1) 研究仮説

特別支援学校での農業に関する学習内容を充実させ、生徒の農業分野への就労意識の向上を図るとともに、農業分野で活躍できる人材を育てる。農業分野の企業・法人に学習内容に関する情報を発信し、現場実習等の機会を増やすことで就労者数が増加し、農福連携が進展する。



### (2) 研究成果と今後期待される効果

**研究成果**

**特別支援学校**

**農福連携は推進すべき！**

- 作業学習で農業に取り組んでいる
- 農作業に適性のある生徒がいる
- 農業関連への就労は限られている
- 農業分野での現場実習は少ない
  （自校での新規開拓は難しい）

**アンケート結果**

**農業分野の企業・法人**

**農福連携は推進すべき！**

- 障害のある人の雇用は限られている
- 特別支援教育について理解が少ない
- 知的障害についての理解が課題
- 現場実習の仕組みの認知度が低い
- 学校との連携意思のある企業あり

**農業就労のための学習支援プログラムの作成と活用**

（活用の視点）

- 作業学習で活用して農業分野への就労を後押し
  障害の特性に応じた支援の工夫を全県で共有
  各校で取り組んでいる実践事例を全県で共有
  農業学習の充実で生徒の「就農したい」の創出
- 就労に向けた「現場実習」の仕組みを発信
- 農業関連の情報を教職員・生徒・保護者に提供

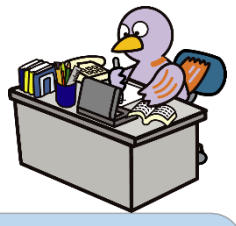
**期待される効果**

**【特別支援学校と農業企業・法人との連携促進】**

- 特別支援学校と農業関連企業・法人の相互理解の促進
- 就労に向けた障害者理解の進展と現場実習の拡充
- 就労機会向上による「生徒の社会参画」と「農業分野の労働力確保」

**埼玉県の 農福連携 が進展！**

## ⑶ 農業就労に向けた「学習支援プログラム」の作成



アンケート調査の結果や、農福連携に取り組む民間委員、学校の研究協力委員からの意見を反映させながら、特別支援教育の情報発信について工夫して作成した。

対象を明示することや、農業分野の企業からの興味をひくことを意識した表紙に！

農業の喜びである収穫風景のほか、機械操作や環境整備の実習も表紙からアピール！

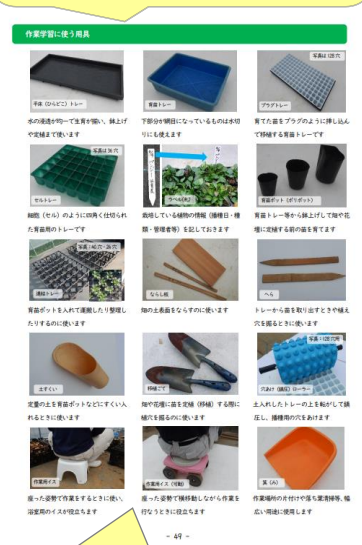
実際の手順に沿って説明し、作業内容に対応した「支援の工夫」を右側部分に掲載！

作業別のページは写真を多用。またポイントは手元のアップなどで視覚からの情報を補助！

特別支援教育ならではの学習支援での好事例を集め、県内全学校で良い取組を共有！

作業が初めての教職員にも分かるよう、「栽培に関する基礎知識」を作業ごとに掲載！

作業が初めての教職員にも使いやすいよう、基礎的な用具は写真と解説を掲載！

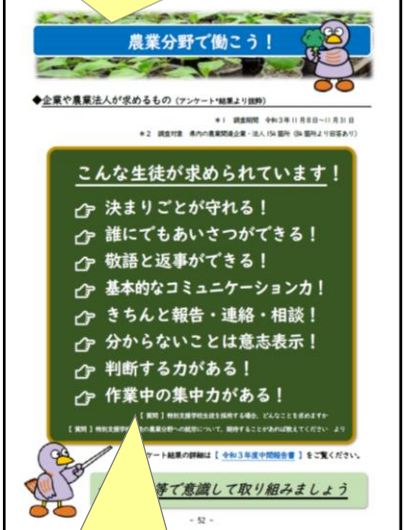



生徒が用具を把握しやすいよう視覚を補助。用具名を覚えて作業に携わる自覚が芽生える！

雇用者へのアピールも兼ねて、特別支援学校の取組を特集するページを作成！

販売や職業教育フェアの様子を雇用者にアピール。生徒の「出来る！」を企業に発信！

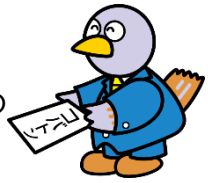
企業アンケートで分かった「雇用者が求めること」を列記して、生徒就労への機運アップ！




作業学習前に読み上げるなどして、生徒の就労への意識の向上をサポート！

### ⑷ 研究成果の活用と広報活動

研究成果を確かなものとするため、「学習支援プログラム」の県内全特別支援学校への提供に加え、国の機関をはじめとした多くの団体との連携を推進して、全国に本県の取組を発信していく。



❶ コンソーシアム*総会へ情報提供

❷ 文部科学省・農林水産省による視察

みんなで耕そう！

ノウフク

NOUFUKU PROJECT

❸ コンソーシアム*への新規入会

❹ 農福連携に取り組む企業と連携

❺ ノウフク座談会での取組

❻ 研修会の新規立案

特別支援学校教職員を対象に、農福連携への理解を深め、農業学習の運営に関する研修を新規に始めます。

＊「耕すみんな」を応援する「全国初の官民連携ノウフク応援団」農福連携等応援コンソーシアム（2020 年設立、農林水産省）

## 4　おわりに

２か年にわたる事業により、農福連携の認知度は高くないが「今後推進すべき」という、特別支援学校と企業等双方の意識が読み取れた。同時に、農業分野は就労先として学校に浸透しておらず、相互理解が必要であることが分かり、それらの視点を基に「学習支援プログラム」を作成した。

今後プログラムを各校で活用し、児童生徒が知識・技術の習得に主体的に取り組む農業学習の充実を促す。当センターは引き続き、農業分野との連携に関わったり、新たに研修会を立案したりし、就労人数の増加を支援していく。

ノウフク

埼玉県立総合教育センター江南支所は
農福連携等応援コンソーシアムの賛助会員です

研修報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページ（ https://www.center.spec.ed.jp ）から閲覧できます。